

株主の皆さまへ

第86期報告書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

東芝機械株式会社

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。当社の事業活動につきましては、平素よりご高配を賜わり、心よりお礼申し上げます。

ここに、株主の皆さまへ（第86期報告書）をお届けするにあたりまして、ひと言ごあいさつ申し上げます。

当期の国内外経済は、世界同時不況の影響を受け、平成20年10月以降急激な悪化を続けてまいりました。今後の見通しにつきましても、世界同時不況が個人消費の低迷や設備投資の凍結を長期化させることにより、企業収益等にさらに深刻な影響を及ぼす状況が続くものと予想されます。

このような中で、当社グループは、平成20年4月1日からスタートした中期経営計画「TM GrowVary Plan」の見直しを行なう時期でしたが、現在の厳しい経営環境に対処すべく、平成21年度は、単年度戦略を策定いたしました。

単年度戦略では、現在の世界同時不況を乗り切るために「ものづくりの原点に戻る」「経費削減を徹底する」「研究開発を加速させる」を基本方針として、当社グループ一丸となって筋肉質な体質を構築し、企業価値の向上と経営基盤の強化に向けて邁進してまいります。

また、ISO9001・14001をベースとした品質・環境管理の徹底等に注力し、会社の将来を担う人材の育成ならびに法令遵守、社会貢献など企業の社会的責任活動等を徹底してやり遂げることで、企業価値の最大化を図り、株主、顧客、取引先、従業員、地域社会等のステークホルダーに報いることができる企業を旨ざしてまいります。

なお、私、飯村幸生は、平成21年6月25日開催の定時株主総会におきまして取締役役に選任され、その後の取締役会で取締役社長に就任いたしました。

株主の皆さまにおかれましては、今後も引き続き何卒いっそうのご指導、ご支援を賜わりますよう、お願い申し上げます。

平成21年6月



取締役社長 飯村幸生

企業集団の現況に関する事項

当期の国内経済は、円高や米国の金融危機に端を発した世界同時不況が実体経済に深刻な影響を及ぼしてきたことにより、個人消費の低迷や設備投資の凍結、企業収益の悪化など、当社グループを取り巻く経営環境は、過去に例を見ないほど厳しい状況のまま推移いたしました。

一方、海外に目を向けましても、同様の理由から世界中の景気が低迷することとなり、特に10月以降は想定以上の速さで深刻な事態に陥りました。

機械業界におきましても、同様の影響を受け、過去に例のない厳しい状況が続きました。

このような状況のもとで、当社グループは、国内外市場での受注確保、新商品の開発、市場の開拓等に全力をあげて取り組みました。

しかしながら、当期の連結受注高は、自動車関連を始めとするすべての顧客業界の設備投資が延期・凍結されるなど厳しい状況が続いたため、前期比32.3%減の1,053億3千万円と大幅な減少となりました。

連結海外受注高は、全体の46.0%、484億6千3百万円となりました。

また、連結売上高も、受注と同様の影響を受け、前期比18.1%減の1,218億9千万円となりました。

連結海外売上高は、全体の43.0%、524億1千万円となりました。

以上の結果、当期末の連結受注残高は、前期比21.0%減の624億6千4百万円となりました。

連結損益につきましては、固定費削減などの緊急施策の実施や経営全般にわたる合理化努力をいたしましたが、営業利益は、前期比39.2%減の115億3千6百万円となりました。また、経常利益は、前期比45.6%減の98億9千1百万円を計上いたしました。当期純利益は、前期比61.9%減の53億2百万円を計上するにとどまりました。

なお、平成20年4月1日付で、経営環境や市場動向の変化に迅速に対応するため、油圧機器事業部を分社し、株式会社ハイエストコーポレーションを設立いたしました。

事業別の概況

事業別の連結受注高・連結売上高は、次のとおりであります。

成形機事業（射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機など）

受注面におきましては、射出成形機は、自動車関連やIT・デジタル家電業界などの国内外での需要低迷、グローバル市場における競争激化等の影響を受け、また、ダイカストマシンは、主要顧客である国内外の自動車・二輪車関連業界を中心とした設備投資が凍結されるなど、大変厳しい市場環境の中で推移いたしました。

押出成形機は、光学用フィルム・シート製造業界の大型設備投資の端境期でもあり、また、自動車・エレクトロニクス関連業界等の設備投資意欲減退の影響を受けました。

この結果、成形機部門全体の連結受注高は、前期比44.1%減の481億4千8百万円（海外比率55.5%）にとどまりました。

一方、連結売上高につきましては、受注と同様の理由により、前期比27.0%減の643億7千5百万円（海外比率50.0%）となりました。

工作機械事業（大型機、門形機、横中ぐり盤、立旋盤、精密加工機など）

受注面におきましては、前半は、産業機械、環境・エネルギー関連、造船業界向けに、横中ぐり盤、立旋盤、大型機等が堅調に推移いたしました。後半には世界同時不況の影響を受け、大きく減少いたしました。

また、精密加工機は、市場の需要減速により減少いたしました。この結果、工作機械部門全体の連結受注高は、前期比14.7%減の387億2千7百万円（海外比率41.8%）となりました。

一方、連結売上高につきましては、前半の堅調な受注と大型機の受注残もあり、前期比2.1%増の382億6千6百万円（海外比率37.0%）となりました。

その他の事業（油圧機器、電子制御装置など）

受注面におきましては、油圧機器は、海外を中心とした建設機械の需要が10月以降急速に減少した影響を受け、また、電子制御装置は、自動車関連、半導体関連業界の市況が低調に推移した影響を受けました。

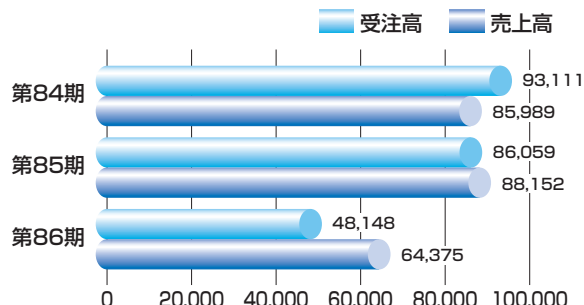
この結果、その他部門全体の連結受注高は、前期比23.6%減の184億5千4百万円（海外比率30.2%）となりました。

一方、連結売上高につきましても、受注と同様の理由により、前期比16.9%減の192億4千8百万円（海外比率31.7%）となりました。

（注）第84期には半導体装置事業を掲載しておりましたが、株式会社ニューフレアテクノロジーが、第85期より持分法適用関連会社に変更となり連結対象から除外されたため、事業別の概況に記載しておりません。

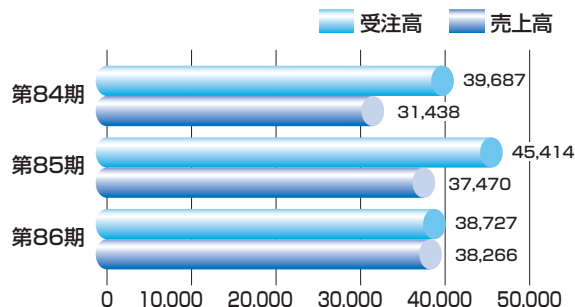
■ 成形機事業受注・売上高推移

（単位：百万円）



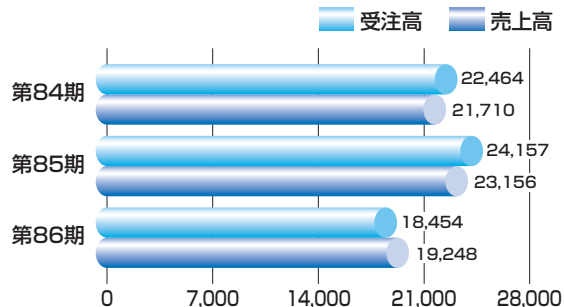
■ 工作機械事業受注・売上高推移

（単位：百万円）



■ その他の事業（油圧機器、電子制御装置など）受注・売上高推移

（単位：百万円）



■上海第3工場完成

東芝機械（上海）有限公司の第3工場が平成20年7月に完成いたしました。

平成20年10月に開所式が開催され、お客さま、上海市閔行区政府の関係者、在上海日本国総領事など大勢の方にご出席いただきました。第3工場は将来の中大型の射出成形機やダイカストマシンの生産にも対応できる構造となっております。

現在上海工場には約200名が勤務しており、小型電動式射出成形機、小型ダイカストマシンおよび油圧機器の生産拠点として、生産性向上、コスト競争力アップを図っております。

今後も当社グループのグローバル展開の生産拠点として、より重要な地位を担ってまいります。



東芝機械（上海）有限公司

■御殿場第2工場完成

御殿場第2工場が平成20年10月に完成いたしました。

当工場は、付属棟（3階建事務所棟、空調機械室、危険物倉庫）を含めた延床面積が約10,000㎡で、天井走行クレーン9基、ウォーククレーン18基、塗装ブース2基、恒温室、自走台車等で構成されており、環境・省エネに配慮した、静岡県構築物環境配慮計画評価「B+」の最新鋭工場となっております。

工場の基礎柱部分はラップルコンクリート柱により直接溶岩層（岩盤）で支持し、堅固な溶岩地盤を最大限利用し、当社が得意とする超大型機械の製造に十分に耐えられる床荷重強度を有しています。

現在は、東芝機械マシナリー株式会社（当社100%子会社）が沼津本社工場から移転し操業しております。横中ぐり盤、門形機、立旋盤、大型機などの生産効率を高め、売上高増大に大きく寄与する生産工場として、今後も当社グループの成長戦略の大きな原動力となります。



御殿場第2工場

■沼津第1テクニカルセンター完成

沼津第1テクニカルセンターが平成20年10月に完成いたしました。

当テクニカルセンターは延床面積が約2,740㎡で、1階が射出成形機のテクニカルセンター、2階は測定室・機械室、3階は機械操作を習得していただくためのスクールや会議室となっており、射出成形機を設備予定のお客さまに対応しております。身障者の方にも配慮した定員11人のエレベーターを2基設置し、また、環境・省エネに配慮した静岡県構築物環境配慮計画評価「B+」建築物にもなっております。

1階のテクニカルセンターの床は型締力1,800tクラスの超大型射出成形機を設置できる地耐力を有し、天井には15tの走行クレーンを設備しており、小型から超大型および株式会社山城精機製作所の射出成形機を配置し、お客さまの多様なテストに応じております。

射出成形機事業部では、当テクニカルセンターに多くのお客さまをお招きし、お客さまの心に突き刺さる多くの提案をして、事業の拡大を図ってまいります。



沼津第1テクニカルセンター

■東芝機械健康保険組合沼津体育館完成

当社沼津本社の新体育館が平成21年4月に完成いたしました。旧体育館同様、天井を高くし開放感を持たせるため、半円形の外観としております。体育館東側1階には健康保険組合事務所と健康管理室、2階には講堂とアスレチックルームがあります。2階はパーティションを取り去って使用することも可能で、200インチのスクリーンや音響設備もあることから、各種イベント、研修会など多目的な利用が可能となります。

体育館には屋内競技用のコートとアスレチックルームにトレーニングマシンを完備しており、社員の健康増進と地域社会の皆さまにご利用いただくのに最適な施設となっております。



健康保険組合沼津体育館

■（新製品）全電動式射出成形機 EC-SXシリーズ ～高生産性・精密安定成形の実現～

当社の射出成形機事業部は全電動式射出成形機EC-SXシリーズを開発、販売を開始いたしました。

本シリーズは、以下の「5つの新技术」で射出成形機としての基本性能を大幅に向上し、高生産性・精密安定成形を実現しております。

- ① 新型締装置：均一な型締力分布と業界トップクラスのハイサイクルを実現
- ② 新射出装置：高速・高圧域での力強い充填性能とスムーズな動きによる安定成形を実現
- ③ 新コントローラ：高速制御周期により高速射出・ハイサイクル成形時でも安定した繰返し性能を実現
15インチTFTカラー液晶画面の採用で、視認性・操作性の向上
- ④ DST機能：成形の再現性と長期安定性を維持するための自動補正機能
- ⑤ スクリューパリエーション拡大：新開発BFスクリュー成形品の黒点不良や異物混入を防ぐためにスクリュー表面への樹脂の付着滞留を抑制



全電動式射出成形機EC-SXシリーズ

■（新製品）超精密非球面加工機ULG-100D発売 ～5軸同時制御と多彩な加工方法で多様な形状加工に対応～

当社のナノ加工システム事業部（当時：精密機器事業部）は超精密非球面加工機ULG-100Dを開発、販売を開始いたしました。

本機は、直線軸3軸（X,Y,Z）、回転軸2軸（B,C）の合計5軸の加工・制御軸を初めて搭載した超精密加工機で、自由曲面加工をはじめとして、シングルポイント切削および平行研削加工などの多彩な加工方法に対応可能で、光学部品加工など様々な分野で活躍が期待されます。

主な特長は、①高精度加工に必要な高いサーボ剛性と送りムラの少ない滑らかな送りにより、高精度加工を実現②高精度加工に悪影響をもたらす熱対策機能が充実③省エネ・省スペースで環境に配慮した設計となっております。



超精密非球面加工機ULG-100D

■（新製品）垂直多関節セル生産ロボット TV800 ～セル生産用ロボットでお客さまのものづくりに貢献～

当社の制御システム事業部は垂直多関節のセル生産ロボットTV800を開発し、IPF2008に出品、販売を開始いたしました。

本機は、アーム長800mm、最大可搬質量5kgのロボットで、現在主に人が行なっている自動車部品・精密電子部品等の生産工程において、その代替に適したロボットです。

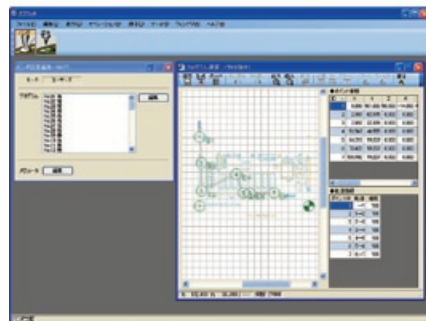
今後はアーム長のバリエーションを増やしてラインナップ化していきます。

また、ロボット動作プログラム作成を容易にするプログラム作成支援ツール「EZCell」（イージーセル）も同時に開発し、ロボットシステムの構築を容易にいたしました。



垂直多関節セル生産ロボットTV800

EZCell | 画面サンプル

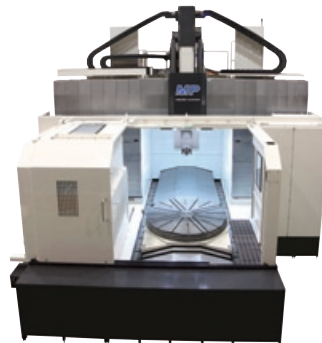


■（新製品）門形複合加工機 MP-（U）シリーズ ～複合化・多軸化による工程集約でリードタイムを大幅に削減～

東芝機械マシナリー株式会社（当社100%子会社）は、エネルギー・航空機・金型産業等の分野の高生産性ニーズに対応したMP-（U）シリーズを開発いたしました。

本機は、クロスレール昇降型の門形マシニングセンタに立旋盤機能を標準で付加し、さらに特別付属品の4軸ヘッドを追加することで、マシニングセンタ加工、立旋盤加工、5軸加工等を1台で可能にした本格的な複合加工機です。

また、標準立主軸ではミーリング・旋盤用工具の自動工具交換、標準立主軸および4軸ヘッドでは自動アタッチメント交換をそれぞれ搭載し、4軸ヘッド主軸の±95°連続チルトを可能にすることで、大型部品加工の高効率化を実現しております。平成20年の日本国際工作機械見本市（JIMTOF）に出展した同機を御殿場第2工場内に設置しており、設備検討中のお客さまからのテスト加工等の相談に対応しております。



門形複合加工機MP-（U）シリーズ

■ (新製品) 高精度ダイシングマシン USM-8D

～ダイシングマシンのフラグシップ機として多様な加工材料に対応～

当社のナノ加工システム事業部（当時：精密機器事業部）は、各種セラミックス、ガラス、単結晶材料を始めとする脆性材の切断・溝入れ加工用途を主なターゲットとしたダイシングマシンUSM-8Dを開発いたしました。

本機は、脆性材切断・溝入れで定評のあるUSMシリーズの高精度・高剛性技術を踏襲し、新たに開発したHMI（ヒューマン・マシン・インターフェイス）を採用することで、汎用性・生産性・アプリケーション能力を向上させました。

主な特長は、①オートフォーカス・オートアライメント機構を標準装備し、オペレーターの負荷を低減②HMIにより簡単な操作性を確保し、お客さまの量産状況にも備えるためにオートローダー（工作物を自動的に所要の位置に搬送する装置）の後付も可能となっています。

また、環境に配慮するために設置面積を従来機より20%削減、エアスピンドルの空気消費量を約20%低減し、ランニングコストの低減も実現しました。



高精度ダイシングマシンUSM-8D

■ nano tech2009にて微細加工技術部門賞を受賞

国際ナノテクノロジー総合展・技術会議（nano tech2009）において、当社のナノ加工システム事業部（当時：微細転写事業部）が微細加工技術部門賞を受賞いたしました。

同総合展には、国内外の大手家電、材料、装置メーカーが出展し、ナノテクノロジーの将来の取り組みを提案している中、当社は薄膜太陽電池のテクスチャー、LED、次世代ハードディスク、光学素子など、ナノインプリント技術の応用例を多数紹介し、ナノレベルの量産加工技術として高いポテンシャルを示した点を高く評価いただきました。

これは当社の微細転写技術が、あらゆるお客さまの将来のアプリケーション創出に欠かすことができないキーテクノロジーを提案していることを意味し、当社にとって励みとなる受賞です。



授賞式で

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

科 目	第86期 (平成21年3月31日現在)	第85期 (平成20年3月31日現在)	科 目	第86期 (平成21年3月31日現在)	第85期 (平成20年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	98,642	122,881	流 動 負 債	46,126	76,468
現金及び預金	15,194	17,083	支払手形及び買掛金	23,858	37,875
受取手形及び売掛金	40,989	53,917	短期借入金	12,009	20,150
有価証券	11,500	17,500	リース債務	10	—
たな卸資産	—	30,138	未払法人税等	607	5,824
商品及び製品	4,639	—	未払費用	4,610	6,265
仕掛品	20,975	—	前受金	3,430	4,241
原材料及び貯蔵品	668	—	製品保証引当金	83	86
繰延税金資産	2,425	3,089	その他の流動負債	1,517	2,025
その他の流動資産	2,456	1,530	固 定 負 債	17,895	11,526
貸倒引当金	△ 207	△ 378	長期借入金	7,500	—
固 定 資 産	34,090	35,116	リース債務	65	—
有形固定資産	24,775	22,443	長期未払金	1,054	2,009
建物及び構築物	12,940	10,928	退職給付引当金	9,179	9,309
機械装置及び運搬具	4,683	4,051	役員退職慰労引当金	96	207
土地	6,052	6,060	負 債 合 計	64,021	87,994
リース資産	72	—	純資産の部		
建設仮勘定	317	605	株 主 資 本	68,875	67,567
その他の有形固定資産	708	798	資本金	12,484	12,484
無形固定資産	606	619	資本剰余金	19,600	19,600
その他の無形固定資産	606	619	利益剰余金	46,826	43,879
投資その他の資産	8,708	12,053	自己株式	△ 10,036	△ 8,397
投資有価証券	5,934	9,101	評 価 ・ 換 算 差 額 等	△ 163	2,436
出資金	107	56	その他有価証券評価差額金	1,061	2,469
長期貸付金	174	204	繰延ヘッジ損益	6	23
繰延税金資産	1,774	2,124	為替換算調整勘定	△ 1,230	△ 56
その他の投資	1,062	948	純 資 産 合 計	68,712	70,003
貸倒引当金	△ 345	△ 382	負 債 ・ 純 資 産 合 計	132,733	157,998
資 産 合 計	132,733	157,998			

（注）第84期に連結子会社であった株式会社ニューフレアテクノロジーは、第85期より持分法適用関連会社に変更となり、連結対象から除外されております。

損益計算書（連結）

キャッシュ・フロー計算書（連結）

（単位：百万円）

科目	第86期	第85期
	（平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで）	（平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで）
売上高	121,890	148,779
売上原価	84,760	101,628
売上総利益	37,129	47,151
販売費及び一般管理費	25,593	28,180
営業利益	11,536	18,971
営業外収益	877	875
営業外費用	2,522	1,667
経常利益	9,891	18,178
特別利益	76	6,503
特別損失	102	4,162
税金等調整前当期純利益	9,866	20,519
法人税、住民税及び事業税	2,676	9,570
法人税等調整額	1,887	△ 2,961
当期純利益	5,302	13,910

（単位：百万円）

科目	第86期	第85期
	（平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで）	（平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,179	7,445
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,901	1,724
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,992	△ 10,558
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,174	△ 55
現金及び現金同等物の増減額	△ 7,888	△ 1,444
現金及び現金同等物の期首残高	34,583	36,027
現金及び現金同等物の期末残高	26,694	34,583

株主資本等変動計算書（連結）

第86期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成20年3月31日 残高	12,484	19,600	43,879	△ 8,397	67,567	2,469	23	△ 56	2,436	70,003
当連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 2,355		△ 2,355					△ 2,355
当期純利益			5,302		5,302					5,302
自己株式の取得				△ 1,638	△ 1,638					△ 1,638
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額（純額）						△ 1,408	△ 16	△ 1,174	△ 2,600	△ 2,600
当連結会計年度中の変動額合計	-	-	2,947	△ 1,638	1,308	△ 1,408	△ 16	△ 1,174	△ 2,600	△ 1,291
平成21年3月31日 残高	12,484	19,600	46,826	△ 10,036	68,875	1,061	6	△ 1,230	△ 163	68,712

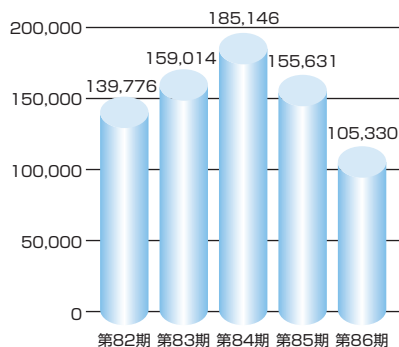
業績の推移 (連結)

財務ハイライト

	第82期 (平成16年度)	第83期 (平成17年度)	第84期 (平成18年度)	第85期 (平成19年度)	第86期 (平成20年度)
受注高(百万円)	139,776	159,014	185,146	155,631	105,330
売上高(百万円)	123,572	144,356	164,385	148,779	121,890
経常利益(百万円)	10,772	15,604	19,721	18,178	9,891
当期純利益(百万円)	7,093	10,482	10,828	13,910	5,302
1株当たり当期純利益(円)	42.48	63.16	65.80	86.79	34.18
総資産(百万円)	145,057	172,476	188,046	157,998	132,733
純資産(百万円)	47,623	60,347	71,028	70,003	68,712

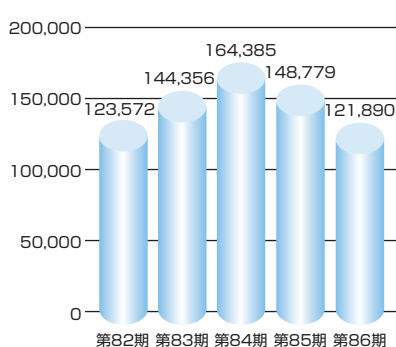
受注高

(単位: 百万円)



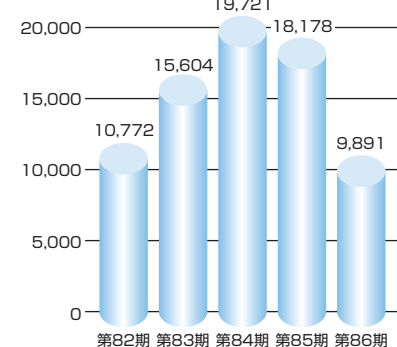
売上高

(単位: 百万円)



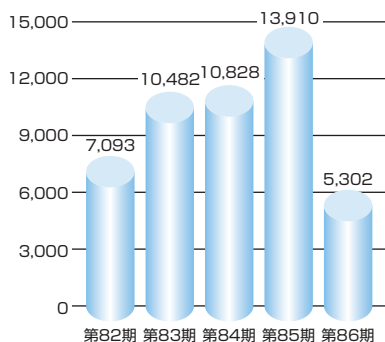
経常利益

(単位: 百万円)



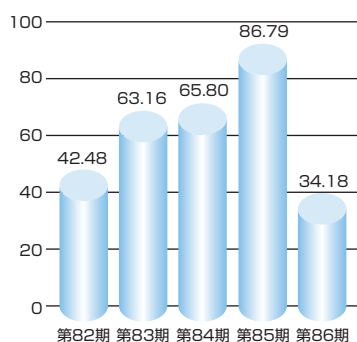
当期純利益

(単位: 百万円)



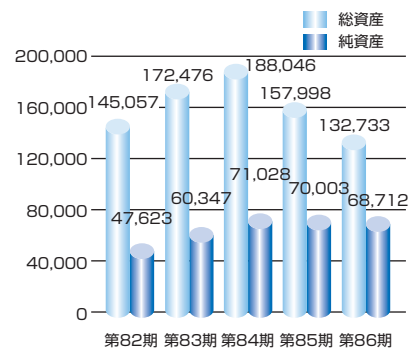
1株当たり当期純利益

(単位: 円)



総資産／純資産

(単位: 百万円)



(注) 第84期まで連結子会社であった株式会社ニューフレアテクノロジーは、第85期より持分法適用関連会社に変更となり、連結対象から除外されております。

貸借対照表（単独）

（単位：百万円）

科 目	第86期	第85期
	(平成21年3月31日現在)	(平成20年3月31日現在)
資 産 の 部		
流動資産	70,975	93,411
固定資産	35,350	35,878
有形固定資産	19,827	18,273
無形固定資産	289	259
投資その他の資産	15,232	17,344
資 産 合 計	106,325	129,289
負 債 の 部		
流動負債	35,793	63,241
固定負債	14,555	8,121
負 債 合 計	50,349	71,362
純資産の部		
株主資本	54,908	55,440
資本剰余金	12,484	12,484
資本剰余金	19,600	19,600
利益剰余金	32,858	31,752
自己株式	△ 10,036	△ 8,397
評価・換算差額等	2,486	2,486
その他有価証券評価差額金	1,061	2,463
繰延ヘッジ損益	6	23
純 資 産 合 計	55,976	57,926
負債・純資産合計	106,325	129,289

損益計算書（単独）

（単位：百万円）

科 目	第86期	第85期
	(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)	(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)
売上高	66,446	101,083
売上原価	51,545	78,318
売上総利益	14,900	22,764
販売費及び一般管理費	12,306	14,156
営 業 利 益	2,594	8,608
営業外収益	4,532	4,609
営業外費用	1,123	1,280
経 常 利 益	6,004	11,937
特別利益	2	6,950
特別損失	817	3,288
税引前当期純利益	5,188	15,600
法人税、住民税及び事業税	110	6,150
法人税等調整額	1,615	△ 2,368
当 期 純 利 益	3,462	11,818

株主資本等変動計算書（単独）

第86期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）

（単位：百万円）

	株 主 資 本										評 価 ・ 換 算 差 額 等				純資産合計	
	資本金	資本剰余金				利益剰余金				自己株式	株主資本計	その他有価証券評価差額	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額		価・算等計
		資本準備金	資本剰余金	資本剰余金	資本剰余金	固定資産圧縮積立金	利益剰余金	利益剰余金	利益剰余金							
平成20年3月31日 残高	12,484	11,538	8,062	19,600	297	31,454	31,752	△ 8,397	55,440	2,463		23	2,486	57,926		
当事業年度中の変動額																
固定資産圧縮積立金の取崩					△ 14	14	-		-					-		
剰余金の配当						△ 2,355	△ 2,355		△ 2,355					△ 2,355		
当期純利益						3,462	3,462		3,462					3,462		
自己株式の取得								△ 1,638	△ 1,638					△ 1,638		
株主資本以外の項目の当事業年度中の変動額（純額）										△ 1,402	△ 16	△ 1,418	△ 1,418			
当事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	△ 14	1,121	1,106	△ 1,638	△ 531	△ 1,402	△ 16	△ 1,418	△ 1,950			
平成21年3月31日 残高	12,484	11,538	8,062	19,600	282	32,576	32,858	△ 10,036	54,908	1,061	6	1,067	55,976			

会社の概況

(1) 商号

東芝機械株式会社
(TOSHIBA MACHINE CO., LTD.)

(2) 所在地

東京都千代田区内幸町2丁目2番2号

(3) 創業

1938年(昭和13年)12月

(4) 設立

1949年(昭和24年)3月

(5) 資本金

124億8千4百万円

(6) 従業員数

連結：3,148名(前期末比98名減)
単独：1,589名(前期末比72名減)

(7) 主要な事業内容

事業	主要製品
成形機事業	射出成形機 ダイカストマシン 押出成形機
工作機械事業	大型機 門形機 横中ぐり盤 立旋盤 精密加工機
その他の事業	油圧機器 電子制御装置

(8) 役員(平成21年6月25日現在)

代表取締役社長	飯村幸生
代表取締役専務取締役	跡部與志
常務取締役	矢野文久
常務取締役	井出彰訓
取締役	芳村享映
取締役	岸本吉弘
取締役	鈴木孝尚
取締役	広中哲幸
取締役	八木正繁
取締役	坂元友雄
常勤監査役	松本倫博
常勤監査役	鈴木正博
常勤監査役	牧野輝幸
監査役	渡辺通春

(9) 主要な営業所および工場

本社 (静岡県沼津市大岡2068番地の3)

本店・支店

- 東京本店 (東京都千代田区内幸町2丁目2番2号)
- 関西支店 (大阪市)
- 中部支店 (名古屋市)
- 九州支店 (福岡市)
- 東北支店 (仙台市)

工場

- 本社工場 (静岡県沼津市)
- 相模工場 (神奈川県座間市)
- 御殿場工場 (静岡県御殿場市)

営業所

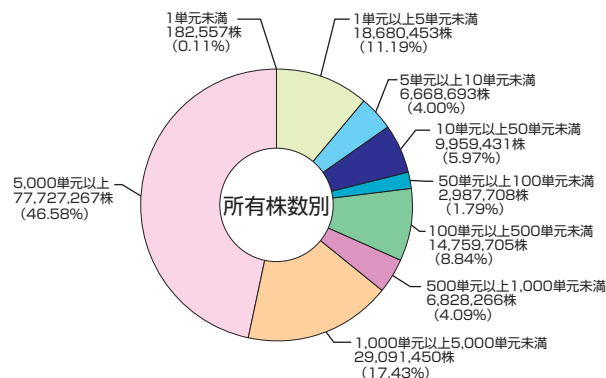
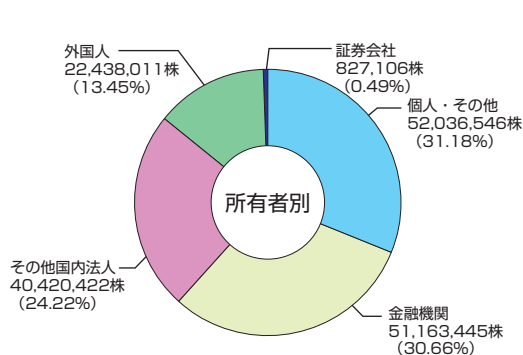
- 高崎営業所 (群馬県高崎市)
- 静岡営業所 (静岡県掛川市)
- 福山営業所 (広島県福山市)

株式の状況

- ①発行可能株式総数 360,000,000株
- ②発行済株式の総数 166,885,530株（自己株式14,843,759株を含む）
- ③株主数 14,567名（前期末比2,935名増）
- ④大株主（上位10名）

株主名	持株数
株式会社東芝	33,545千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4G）	10,925
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	9,595
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	8,819
資産管理サービス信託銀行株式会社（年金信託口）	3,948
株式会社静岡銀行	2,980
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ	2,695
ロンドン エスエル オムニバス アカウント	2,682
株式会社三井住友銀行	2,420
トヨタ自動車株式会社	2,195
東芝機械取引先持株会	2,195

⑤株式の分布状況



ホームページのご紹介



東芝機械ではホームページによる情報開示を積極的に行なっております。財務情報や最新ニュースを始めとするIRサイトも掲載しており、製品情報も含めて随時更新を行なっております。

<http://www.toshiba-machine.co.jp>

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
基準日 定時株主総会については3月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
- 期末配当基準日 毎年3月31日
中間配当基準日 毎年9月30日
公告掲載新聞 日本経済新聞
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
 - ・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。



この報告書は、環境に優しい大豆油インキを使用して印刷しています。